

第14回 釜山アジア競技大会 ソフトテニス競技

2002年10月1日(火)～7日(月) 韓国、釜山市、Sajikソフトテニスコート

韓国チームが7種別完勝 日本は銀メダル3個(男女団体戦・女子個人戦ダブルス)

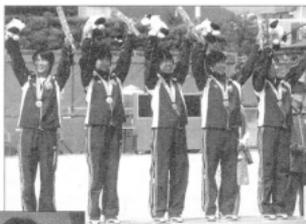
競技は1日からの3日間は団体戦が、4日から7日までは個人戦の男女ダブルス、男女シングルス、混合ダブルスが行われ、特に今回の大会では公式表彰セレモニーの関係と思われませんが、7日に個人戦5種別の決勝がまとめて行われました。日本選手団は団体戦で男女とも中華台北には勝ったものの韓国に敗れ、銀メダル、また個人戦では女子ダブルスで水上・八谷組の銀メダルのみで、金メダルは韓国が7種別独占という最近にない不本意な成績に終わったことが惜しまれます。

今回の参加国は団体戦が男女とも日本、韓国、中国、中華台北、モンゴルの5カ国(地域)。それに個人戦のみ参加のフィリピン男女、ネパール男子を加えても計7カ国(地域)と、国際大会としてはこれまでに少なくない状況でした。これは戦力が4強にかなわっていて、過去の大会においてその他の国は殆ど注目される戦績がないため、各国オリンピック委員会が参加を認めなかったことが大きな要因と思われます。

まだまだ国際競技として普及途上にあるソフトテニスが今後さらに発展するには、単に勝敗という結果だけではなく、競技そのものの魅力が観るものにもっと伝わるようであればならない。そしてもっと多くの国々が参加できるような環境がつけられなければならないことを痛感する大会でした。



男子団体 2位



女子団体 2位



女子個人ダブルス 2位
水上・八谷組



男子チーム



女子チーム

第14回釜山アジア競技大会に参加して

国際委員長 西村信寛

今回アジア競技大会に参加している国考えさせられたことがある。その中でいくつかのことを感想として述べていただきたいと思います。

1 強化の問題について

(1) アジア競技大会の団体戦において、日本チームは初めて公開競技として実施された1990年北京大会の女子以降、広島大会、バンコク大会、釜山大会と優勝していない。

(2) 最近の大会では2000年佐賀のアジア選手権大会、2001年大阪の東アジア大会で日本は優勝した。

(3) 日本で開催されたこれらの大会以外には、このところ韓国と中華台北に押されて、特に韓国には個人戦を含めてかなりの苦戦を強いられている。

(4) 釜山アジア大会の折に見聞した関係者の話や報道によると、日本と韓国との大会に臨む考えにいくつかの相違点がある。たとえば次のような点である。

① 韓国はアジア競技大会など国際大会には、他の大会を犠牲にして目標をその大会に絞る。

② たとえば水泳では、大会直前に福岡で開催されたパンパシフィック大会に韓国は出場しなかった。また野球では期間中のプロの試合を中止して、第一線のプロアジア大会に出場した。日本もプロが参加したが、いわゆる2軍の選手であった。アジア大会については、韓国の団体も時期を変更した、などなどである。ソフトテニスについてもどこまで詳しくわからないが、この大会に合わせて徹底的強化を行ったとの声も聞かれた。

③ 日本ではアジア競技大会は、いろいろを国際大会のうちの一つとして認識されている面があると思う。またソフトテニスにおいては、本人や所属の考えはどうか、また日本連盟としてはどうか、たとえば今回の釜山大会の直前に、全日本選手権大会が行われ、そのまゝ韓国入りできるを得ない男児となったが、こうしたことも今後検討すべき課題と思える。

④ 韓国では実業団チームは男女とも8チーム程度と聞いた。1チーム10名としても男女各80名そこそこである。この中から選考していると想像されるが、違いは大きい。韓国では小学生、中学生、高校生、実業団と協会主導で一貫した強化策をとっているものと思われる。実績を上げた選手には、就職など手厚い処遇もあるようである。日本では普及面でも力が注がれ、他国に比べ圧倒的に層が厚いが、強化面ではどうしても本や所属に依存せざるを得ない実態があり、韓国と対照的である。

⑤ 韓国協会は決して資金が豊富ではない。その中でもちろん国の意向、援助があるだろうが、絞られた目標に対して、徹底的強化策をとっているのであろう。そのため一般的な国際活動は、個人負担ならともかく、協会としては極力経費負担を制限しているようである。

2 韓国以外のレベル

(1) 中華台北

今年になって陳 植権会長と林 永敏専務理事が勇退し、黄 慶淵会長、陳 榮祥専務理事の新体制に替わった。黄会長は自分でもソフトテニスができるようで、前の副会長を務めた。大きな変化があったものと思えない。選手もこのところ目立つ新人の台頭が見られないので、今後どのように強化、育成を図るか、もうしばらく様子を見ないといけない面が多い。ソフトテニスの普及の面でも停滞してしまわないよう願いたい。

(2) 中国

中国のスポーツ体制は近年大きく変化してきており、基本的には国がすべて管理する体制から、個々の競技団体の自主性が取り戻されつつある。したがって力のある競技団体は、ますます充実する反面、そうでない競技は、淘汰されかねない状況にあるとも考えられる。ソフトテニス、中国ではまだまだ力があるとは言えず、国体の競技にもなっていないので、選手の育成もはかどらないであろう。また大学を卒業後、ソフトテニスを継続する環境ができていないことも、せつかの素材を活かさない要因にも思われる。このような状況で克服して、日本と韓国に追いつきを持つにはどうしたよいか、また我々に行えることは何かを検討し、共に問題を解決していく必要に迫られている。その点で聞くと、今回のアジア競技大会で、女子シングルスが3位入賞し、銅メダルを獲得したことは、将来に希望の持てる明るいニュースであった。

(3) モンゴル共和国

レベル的には中国(地域)に比べてまだまだであるが、役員、選手がみな熱心で、徐々に力をつけている。日本各地の皆さんの支援も、他に見られ

ないほど充実しており、また本年8月に日本の方々の支援で、ウランバルトの中心地に8面のソフトテニスコートが完成し、今後ますます期待できる。早く強い一角を削せるよう期待したい。

(4) フィリピン

東南アジアではもっとも選手の手が強い。連盟もしっかりしており、他のアジア諸国に比べ、財政的にも問題が少ないので、さらに関係者の意欲が出てくれば、強化育成が進むのではないかと期待できる。釜山大会ではフィリピンオリンピック委員会から男女各2名の参加しか認められなかったため、活躍できなかったが、本年6月にはマニラで自主的に東南アジア選手権大会を実施するなど、ソフトテニスの振興に積極的に取り組んでいる。

(5) その他

ネパールが男子2名参加したが、その他の国は不参加であった。各国内で熱心に参加を申請していたのはタイランド、インドネシア、マレーシア、モルディブであったが、いずれも過去の実績が乏しく、また各国内の競技団体としての力関係もあり、結局各オリンピック委員会の参加許可を得られなかった。ソフトテニスは現在のところ日本や韓国などトップクラスと、これら普及途上の国とで、力の差が極めて大きく、やむをえないこととはいえ、それが国際普及の上で障害になっていることも、認識しておかねばならないことの一つといえる。

3 その他の課題について

(1) 今後の国際普及について

重要なことはこのソフトテニスをどうすれば世界的に普及できるか、関係者がよく検討し、共通の認識をもって対応することである。今まではともかく、世界規模になれば一人や二人の力や、日本だけの力では、期待どおり実現するとは思えない。オリンピック実施が実現すれば何とかなるとの考え方もあるが、状況はそれほど簡単ではなく、今程度の基礎では問題にならないと考えざるを得ない。まず足元を固めること、量的、質的の基礎を築き上げるということが重要である。もう一度ソフトテニスの国際化について、基本的な共通認識が必要なのはそのためである。

(2) ルール改正について

このたびのルール改正に際し、日本国内のことは別として、国際的には次のように進展している。釜山アジア競技大会の折に開催された、アジアソフトテニス連盟の理事会にこれを提案したところ、反論は全くなく論議において各国とも賛成であった。その後韓国から、シングルのネットを高くしなさいと競技者の声の上からいではないかという意見が出されたが、今のシングルスは変え方がよいとの認識は共通である。国際ソフトテニス連盟の補会長も趣旨を説明したところ、国際連盟の諸国関係論は重要かつ急務であるという基本認識は同じであり、関係者よく検討して、前向きに対応してほしいとのことであった。今後の展開としては、まず英文の原案を作成し、それを国際連盟加盟国に提案として送付し、その後各国の検討を経て、2003年11月に広島市で開催される第12回世界ソフトテニス選手権大会の期間中に行われる予定の国際連盟総会で結論が出るように願っている。今回の改正は国際普及とわりかけ米の普及にとっても、欠かせない規定整備と考えている。

(3) ボールの問題について

釜山アジア競技大会で少なからず問題が表面に出たことにはボールの問題がある。現在ソフトテニスボールを製造しているのは日本の2社、韓国の1社、台湾の1社、中国の1社(国際大会使用の実績はない)であるが、選手にとり特に日本と韓国のボールでは、かなり違和感があるというものである。

何が大い違いなのか明確ではないが、少なくともルール上の規格では両方とも適合するはずである。それにもかかわらず、もしボールが質的にかなり違うのであれば、またそのことが国際大会において、各国の選手の問題に少なからず影響があるのではないか、ソフトテニス競技そのものに問題が生じる事柄である。本来国際連盟が承認しているボールであれば、どのボールを使っても選手にとって同じ条件で戦える状態をなければならない。その意味でソフトテニス競技では、ボールはもっとも基本的な用具である。韓国の役員も当然考えは同じと思うが、それぞれが国内情において早急な調整に問題のあることも事実である。たとえば韓国国情は日本ボール価格の4分の1程度のことであり、メーカーの技術や経営の問題がある。これまでの国際大会では韓国国(地)の判断で対応されており、それぞれの国のボールが国際連盟等承認団体に承認されてきた経緯もある。今後どうするかは国際的視野で考えなければならない。まずそれぞれの質的違いをよく分析して、その違いをなくしていく調整が必要であろう。今回のルール改正を契機にこの問題を解決に向かうことを期待したい。

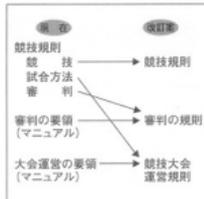
競技規則等の見直しについて

競技規則見直しについては、現行ルールが約10年経過し、この間、評議員会や各支部そして直接選手から見直しについての様々なご意見をいただき重要課題となっております。

本年度からスタートした日本フットテニス連盟の中・長期基本方針に競技規則見直しを明確に位置付け、小・中・高校をはじめとする各層各分野より委員を選出して競技規則見直しプロジェクトを立ち上げ、今までいただいたご意見と検討事項をとりまとめて競技規則見直し(案)を作成しました。今回の競技規則の主な改正点は、パートナーのポジションの制約の廃止(ファウルの廃止)と判定時に対する異議の申立てを認めないこと、およびボールのハウンドの高さの変更、そしてシングルスコートとネットの高さの変更です。

併せて、今後国際を含めてさらにフィットネスを普及させるためには、出来る限り簡明化を図るべきという観点から、ハンドブック(案)のとおり「競技規則」「審判要領」「競技大会運営要領」の3つの規則に再編して整備しました。

これからの1年間を多くの皆様からご意見をいただく検討期間とし、その意見を出される限り見直しに反映してまいりたいと考えておりますので、各支部(都道府県連盟・中体連・高体連・学連)を通じて活発な意見提案をお願いいたします。



◆「競技規則」の主な改正点

	現 行	改 正
ダブルス	1. ボールのハウンドの高さ 試合を行うコートにおいて150cmの高さから落とした場合、65cmないし80cmとする。	1. ボールのハウンドの高さ 試合を行うコートにおいて、何らの力を加えないで落とした場合、ボールの下端が75cm以上80cm以内。
	2. サービスの時、サービスをするプレーヤー、レシーブをするプレーヤーのほかに、サービスが終わるまで、サイドラインの仮想延長線の間でベースラインの後方に位置する。	2. サービスの時、サービスをするプレーヤーのほかに位置の制限は行わない。
	3. サービス(レシーブ)の順序 1) ファイナルゲームの時1-2ポイントのサービスををしたプレーヤーが3ポイント目のレシーブを行う。 2) ファイナルゲームの時1ポイント目のレシーブを行ったプレーヤーが、3-4ポイント目のサービスをを行う。 3) サービス(レシーブ)の順序を間違えた場合失ポイント(インターフェア)。	3. サービス(レシーブ)の順序 1) ~ 2) 3-4ポイント目のサービス(レシーブ)は、サービス(レシーブ)をする組のいずれかのプレーヤーが行う、以後のサービス(レシーブ)の順序は、そのゲーム中変更することはできない。 3) サービス(レシーブ)の順番が間違ってもインプレーとする。 ・インプレー後は次のポイントから訂正 ・第1サービス終了後発見→正しい順序で第1サービスから
	4. サービス終了までに、サービスをするプレーヤーおよびレシーブするプレーヤーの各パートナーがコートに触れるか、サイドラインの仮想延長線の外に出た場合、失ポイント(ファウル)。	4. パートナーのポジション制約廃止に伴い規定から除外(ファウルの廃止)。
	5. アンハイヤーの判定が明らかに誤りであると認められる場合には、アンハイヤーに対し異議を申し立てることができる。	5. アンハイヤーの判定に対し異議の申し立てを認めない。
	6. 罰則 警告が3回一組またはチームが失格。	6. 罰則 警告(ウォーニング) 1回(イエロー) → 注意 2回(オレンジ) → 失ポイント 3回(レッド) → 失ゲーム 4回(ブラック) → 失格
シングルス	1. ネットの高さ 1.06m	1. ネットの高さ ・シングルスサテライン外側0.915mに高さ1.22mのシングルスステックを立てる ・ネットの中央の高さ1.07m (1.06m)
	2. コートを4分置	2. 両方のサービスサテラインをベースラインまで延長シングルスサテラインとする。